

第62回車座集会意見交換内容（中原区）

- 1 開催日時 令和5年12月21日（木） 午前9時30分から午前11時00分まで
- 2 場 所 上丸子小学校
- 3 参加者等 参加者165名、傍聴者等4名 合計169名
- 4 内 容 ①各クラスでの意見交換 ②市長との意見交換

<②市長との意見交換>

市長：皆さん、改めましてこんにちは。よろしく申し上げます。

それでは、これから30分間、大人の参加者とクラスの皆さんと意見交換をさせていただきたいと思っております。

大人の皆さんに「きになるブック」を書いていただいたので、30分間で回すためには大体1人2分ぐらいということで、できれば短くコメントをいただきたいと思っています。

それでは、小池さん、まずいいですか。

小池さん：無印良品グランツリー武蔵小杉の小池美穂です。こんにちは。

（無印良品の紙袋を掲げて）こういう袋、見たことはありますか。ありがとうございます。皆さんとこうやってお知り合いになれましたので、ぜひ、お店に来たら声をかけてほしいなと思います。ありがとうございます。

今日、6年1組にお邪魔しまして、気になったことは、オン、オフを分けるというお話が大人の私にもすごく響きまして、オンを大切にしている方もいれば、オフを大切にしている方もいるというのがあったのですが、皆さんのオンとオフはそもそも何でしょう。

おうちのお手伝いがオンなのかオフなのかとか、学校はオンなのかオフなのかとか、あとそれはどちらが好き、嫌いでもいいですけど、大切かどうか。あと、オン、オフをひっくり返して御自身が大切にしている時間は、何が自分にとって幸せなのかなと、これをやっている自分は誇りを持てると思える時間は皆さんどんなものをお持ちなのかなというのが気になりました。

市長：オン、オフ、大人だと仕事がオンで、オフが休日だったりしますけれど、皆さんにとって何がオンなのかオフなのかが気になるという話でした。

6年1組に行かれて気づいたということですけども、6年1組の方から教えていただいてもいいですか。

6年1組児童：はい。オン、オフについて、僕は学校がオンだと思っていて、家でゲームをする時間とかはオフと思っています。あと、塾での授業だったり、自習の時間を僕はオンと捉えています。

僕はどちらが大事かというのは、オフが大事だと思っていて、どうしてかというと、オフを大事にすることによって、オンの効率が上がるというか、ゲームの時間を大切に、しっかり寝て休んでとやると、学校ですごくいいパフォーマンスが出せるんですよ。だから、オフでしっかり休憩して、オンで最高のパフォーマンスを出せるから、準備としてオフは大事だと僕は考えます。

市長：いや、すばらしい。オフを充実させることによって、オンのところで最高のパフォーマンスができる。どっさりしましたね。

では皆さん、オフを大事にしている方、児童の皆さんでオフのほうを大事にしているよという方はどれぐらいいますか。手を挙げてもらっていいですか。

結構やっぱりオフは大事だなと。ありがとうございます、びっくりしました。

何か大人の方で、大西さん、コメントをいただいてもいいですか、今のオンとオフの話。いや、ものすごく面白い。

大西さん：かわさきFM、ラジオ局の大西といいます。よろしくお願いします。

私もオフが大事であると同じことを考えていたので、みんなオンとかオフをあまり意識せずに生活していると思うんですけど、でも自分のリラックスする時間とか、本当に好きなものとか好きな人とか、そういうものに触れている時間というのを大事にしながら、自分の気持ちや考えを深めたり、やりたいことは何だろうと、悩んだり考えたりとか、そんなことをする時間は私にとっても大事だということを改めて考えさせられました。それでパフォーマンスが最大化しているかどうかは分からないんですけど・・・。

市長：本当ですね。いや、どっきりしました。オフは大事ですよ。

大西さん：大事ですね。

市長：大人にとってもすごくどっきりさせられるようなコメントをいただきました。ありがとうございます。

そのまま、大西さん、「きになるブック」の話をしてもらっていいですか。

大西さん：はい。私は6年4組のクラスにお邪魔していて、すごくいいなと思ったのは、1人じゃ楽しくないと言っている班があって。自分が楽しいというのはすごく大事だけれど、1人じゃ楽しくないから他の人がいるというのが社会だよという中で、じゃあ、自分だけが楽しいじゃなくて、相手も楽しいという、そういう状態とかそういう社会だったらいいよねという話が出ていたと思うんですね。

いくつかの班でそういうお話をしているところがあったので、あ、これはすごく本質だなと思って、地域の社会はこういうことで成り立っていくし、みんなが助け合う社会になっていくのかなというのを今日は私もすごく強く感じました。

聞いてみたいことでもいいですか。書き切れていないのですが、他のクラスでもあったか分からないんですけど、否定されない社会にしたいというのがいくつか出ていたと思うんです。「ドンマイ！」と言われる経験からすごくそれがうれしくて、みんなで失敗しても「ドンマイ！」と言って、それを自分も発信して、みんなで考えていこうよと、失敗してもそれはいい経験にしていこうというような、そういう話が6年4組のクラスでは出ていたと思うんですけども、気になったのは、この否定されるということは結構あるものですか。何か失敗することが怖いとか、否定されるとか、そんな経験はあるのかなということを聞いてみたいと思いました。

市長：ありがとうございます。逆に、否定されることはあるのかということですね。失敗を恐れてしまう自分があるのかという問いだったと思うんですけども、どこのクラスに聞きましょうか。手を挙げてもらってもいいですか。

6年4組児童：否定されることはあまりないんですけど、でも、否定されるときでも励まし合ったり、言葉をかけ合ったりする社会のほうがより良くなると感じました。

市長：そうですね、ありがとうございます。

誰か、他にいますか。否定されることは結構あるよとか、あるいは失敗を恐れてしまう自分がいるとかというコメントはありますか。

6年4組児童：例えば、僕は何が好きだけれどという、そういう否定というのはごくたまに親とかにあって、失敗を恐れるというのはもう僕はしょっちゅうあります。昨日も50問テストがあったんですけど、親に高い点数を取れと言われるけれど、僕は漢字が苦手なので、もうやっている最中でも怖くて怖くて、そういう失敗を恐れてしまうのはたくさんあります。

市長：ありがとうございます。でも、そうやって言えていることがすごいですね。そういうふうに怖いと思ってしまう、失敗を恐れてしまっていることをみんなの前で言えているのは、すごく素敵なことだと思います。失敗を恐れちゃう自分がいるという人はどの位いますか。やっぱりそうですね、僕も失敗するのはすごく怖いというふうに思うので。ありがとうございます。

失敗はみんなする。だけど、どういうふうにリカバリーしていくかということなんじゃないかなというふうに思いますね。では、岩本さんからいいですか。

岩本さん：日本電気、NECの岩本と申します。

すぐそこ、武蔵小杉のところに大きいビルが建っていると思いますけど、あちらが会社になります。

今日は、6年3組を見させていただきまして、皆さんのなりたい自分というところで、楽しくとか、例えば幸せに、それから挑戦できるというような社会をつくりたいという話の中で、御意見の1つに、自分の考えを変えられるということをおっしゃっていただいた方がいて、非常に感銘を受けたんですね。ちょうど福田市長と一緒に聞いていたんですけど、僕は思わず質問しちゃったんですけど、何でと聞いたら、人の考えを聞くことによって、自分が考えを変えるというのは、僕の理解は、その人の考え方を自分が受け入れて自分が変えられるということはすごいなと思ったんですね。

あえてそのすごいなと思ったところに、逆質問じゃないんですけど、どうしても自分の考えを変えたくないときはもしかしたらみんなもあるのかなと思っていて、じゃあ、そんなときにでも自分の考えを変えるにはどうしたらいいんだろうというところ、大人になるとどんどん意固地になって、頑固になっちゃって変えられなくなってくるので、その辺でいいアイデアがあったら教えていただけないかと思って質問いたしました。

市長：ありがとうございます。私も聞いてみたいです。

何組でしたかね。私も岩本さんと一緒に聞いていたんですけど。

岩本さん：6年3組です。

市長：6年3組。いいですか。

6年3組児童：自分の考えを変えたくないというのは、つまり自分の中で芯をずっと持っていたいということだから、それはそれで自分の1つの考えなんじゃないかと思って、自分の意見を変えたくない、自分の考えを変えたくないというその考え方自体が1つの考え方なので、それは否定してわざわざ変えるんじゃないかと、その1つの考え方として尊重していけばいいのではないかなと思います。

岩本さん：ありがとうございます。目からウロコじゃないですけど、勉強になります。

市長：なるほど。すごい。僕、コメントができないほどすごい。これについてどう思いますか、岩本さん、重ねて、今のコメントに対して。

岩本さん：すごく勉強になりました。そうですね、そういう考えがあるという自分をちゃんと自覚するという御意見だったので、そういうふうにながめて、これから精進したいと思います。

市長：ありがとうございました。
それでは、大杉さん、いきましょか。

大杉さん：皆さんスポーツとかは好きですか。

いろいろな人がスポーツをすることができるように、我々、コネクトフロムヒアとって川崎市内を中心に活動させていただいている者になります。ぜひいろいろイベントとかがあったら周知いたしますので、御参加ください。

私、6年1組にお邪魔させてもらって話合いを見させていただきました。ありがとうございました。

私は、人間らしく生きるとは何だろうみたいところを、皆さんの話を聞いてとても思ったんですね。やっぱり私たち、人間じゃないですか。皆さん人間だと思うんですけども、機械とかの話もあって、機械に得意なこともあれば、苦手なこともあるし、僕たち人間にも得意なことがあれば、苦手なこともあると思います。

人間の中にも、僕の得意なことも苦手なこともあるし、皆さんの得意なことも苦手なこともあると思って、そういうことを踏まえた上で、他の人とまた自分自身とどういうふうに関わっていったらいいのかということ、皆さんの話を聞いて、考えさせられました。

ぜひちょっと皆さんに聞いてみたいことなんですけれど、皆さん結構、「尊重する」「心に余裕を持つことが大事」「個性」「信頼」みたいなワードを挙げてくださったんですけども、具体的にそれはどういうことなんだろうなというのを、皆さんの意見を深く聞いてみたいと思ったんですね。

僕が1番気になったのがやっぱり「信頼」という言葉、すごく大事だと僕自身は思ったんですけど、皆さんにとって「信頼する」とはどういうことかなというのを聞いてみたいです。

市長：はい。6年1組さんを見ていただいたので、「人間らしくとはどういうこと」ということと、「信頼とはどういうことですか」という2つの質問ですね。

6年1組児童：僕は、周りにいる全員が信頼できない人だったら、自分で全部のことを成し遂げないといけないから、いづらと思うんですね。でも、周りに信頼できる人がたくさんいたら、その人、自分のことを頼ることができて、心に余裕を持っていろいろなことに取り組むことができると思うので、人を信頼することというのは大事だと思います。

市長：ありがとうございます。すばらしいコメント、皆さん、拍手をお願いします。ありがとうございます。
僕、どこかのクラスでも聞きましたね。みんなでやれると、1人ではできないことを実現できるというコメントをどこかのクラスで聞きましたけれど、信頼とはそういうものだという解釈でしたね。とても共感します。

じゃあ、もう1つの質問がありましたね。人間らしくというのはどういうことだろうということについて、答えていただけますか。1組さんだけじゃなくても結構ですよ。

じゃあ、1組さんでいいですかね。

私、1組さんのところに行ったときに、結構特徴的で。AIのことを書いているクラスは1組さんぐら이었다かな。結構ほとんどの班がAIと人間らしくみたいな話をしていたので、どうだろう。僕も気になった。

6年1組児童：誰にも好きってあるじゃないですか。それで、やっぱり好きはAIに取られちゃ駄目だし、好きは人間の特徴みたいな感じだから、やっぱりAIに支配されたりとらわれずに人間らしく生きていけば人生はうまくいきます。

市長：素晴らしい。僕もそのコメント気になったんです。「AIに好きを取られない」とはどういうことなんだろうと思ったんですけど、何かすごく刺さる言葉だなと思って。でも、人間らしく、自分が好きという感情をすごく大切にしていきたいという言葉にあふれていたと思います。ありがとうございます。それでは、庄司さんの「きになるブック」いきましょう。

庄司さん：川崎市地球温暖化防止活動推進センターの庄司です。いろいろな学校に、出前授業でうちのメンバーの人たちが行っています。ここも来ているんじゃないかなと思います。

今日、6年2組さんのお話を聞かせていただきました。自分の考えをすごくしっかりと話していて、もうすごい、やっぱり6年生だなと、もう最終段階に来ているんだなというふうに思いました。

いろいろな人のお話を聞いて考えて、それをしっかり受け止めてそれが今日いろいろなお話の中に出ていると思いました。その中で気になったのは、プラス面だけの社会なんてないよねみたいな話をしていたんですね、マイナス面もあるよねと。マイナス面は、単にマイナスだよねという考えではなくて、課題のある社会には成長があるということを書いていました。

マイナス面のことも考えているというのがすごいと思ったのですが、1番みんなが、6年2組の皆さんが、マイナス、ここを変えたいと思っていることは何ですか。

市長：ここを変えたいというのは何ですか。6年2組の皆さん、いかがでしょうか。

6年2組児童：自分が変えたいところは、学校生活でも自分がよいと思っていることを全部できないじゃないですか。自分だったら、例えば忘れ物をしちやったりすることがあるんですけど、そういうところも駄目だと思うのではなくて、そこも成長できる場所として捉えることで、よりよく学校生活を送れたり、成長することができるようになりますと思います。

市長：拍手～、すごい。

庄司さん、僕もメモったものがあるんです。ピンチから学ぶとか、失敗から学ぶという言葉が、どのクラスだったかな、結構出ていましたね。いろいろなクラスで出ていたと思います。今、忘れ物の話からも自分のプラス、成長につなげるというのは何かはっとさせられますね。

庄司さん：本当ですね。ぜひそれが社会のマイナスとつながることって、どんなことがあるのかなんていうのに広がっていくといいなと思いました。

市長：そうですね。もう一言。6年2組さんでなくてもいいんですけど、自分の失敗というか、社会のこういう課題があるよねと、こういうふうに変えたいよねと思っているものは何かありますか。地域のことも結構ですよ。

じゃあ、6年4組さんから手が挙がりましたので、まず、じゃあ、6年4組さん。

6年4組児童：僕は「やりたいことができる」と書いたんですけど、やっぱり無理だよとか、そういう差別というかがあるじゃないですか。ドリームキラーというのかはあれですけど、やっぱりそういうのがあるから、夢を目指せない人とかいて、そういうのがなくなれば、みんなが夢を目指せる社会になるのかなと思います。

市長：ありがとうございます。自分の夢を大切にすることから、人も尊重するということですよ。素晴らしいですね。ありがとうございます。

それでは、藤平さんの気になるというのをお願いできますか。

藤平さん：ダンサンプルの藤平真梨です。

普段はコンテンポラリーダンスという、正解のないダンスを用いて子どもからいろんな年齢の方、障害のある方も含めていろいろな方が自由に表現しようということをやっています。私自身、世界旅をしていていろいろな国を踊り回って何か表現したり、もうとにかく踊り野郎です。

6年3組さんを見させていただいたんですけど、もう本当に何かすごく意見がいっぱい出過ぎて、私は人生のメモみたいな感じですごくメモ書きをしていたんですけど、例えばみんなの自尊心を高めたら何かいろいろな人がチャレンジできる社会になっていくのではないかと、いろいろな意見が出ていて、その中ですごく気になったのが、そもそも幸せとは何だろうみたいな話が出たんですね。

すごく私もそれが気になって、「幸せになるには」みたいな、大きいテーマなんですけれど、どなたかお答えいただけたらうれしいです。よろしくお願いします。

市長：6年3組さんですね。

6年3組児童：幸せになるにはという質問だったんですけど、幸せというのはまず自分が幸せと思うことが大事だし、まず自分が幸せと思うにはやりたいことをやるのが大事なので、そういうことにいろいろチャレンジしていけば幸せになれると思います。

市長：ありがとうございます。素晴らしい。

藤平さん：ありがとうございます。

市長：藤平さん、冒頭のコメントで正解のないものというのを表現していると、コンテンポラリーダンスで、それはすごく難しいですね。

藤平さん：難しいですね。

市長：何が正解かというふうなものを自分で問い続けるということは、すごく幸せですか。

藤平さん：私は幸せですね。

市長：テストとかは正解とか不正解がありますけれど、正解がどこにあるのかということを探め続けるのは素敵な話だと思うんですけど、その辺りをコメントしてもらってもいいですか。

藤平さん：ありがとうございます。

正解がないので、自分が正解と思ったら全部正解になっちゃうみたいな感じなんですよ。

市長：共通していますよね。だから、まず自分が幸せだというふうに思うみたいな、それと自分を否定しないことですよ。すごくヒントになりました。

6年4組児童：幸せというのは、例えば朝ご飯で、僕は朝ご飯を食べないんですけど、お母さんがそれで怒るんですね。ウザイと思っているんですけど、怒っていることは、マイナスに捉えるとウザイとなるんですけど、逆にプラスに捉えて心配してくれているとなると、何かうれしくなったりして、そうするとどんどん自分の気持ちが上に行って、幸せになるんじゃないかなと思います。

市長：すばらしい。そういう人に私もなりたいです。ありがとうございます。

同じことを言われてもどう捉えるかということによって、全然意味合いが違ってくるということを教えてくれたような気がします。ありがとうございます。

それでは、山際さんから「きになる」を教えてくださいませんか。

山際さん：弁護士の山際康太郎です。

今日は、僕は6年4組の授業を見させてもらいました。一昨日も見て、2回見させていただきました。一昨日は、皆さんの好きなことややりたいことを仕事にしたいということを言っている人が多かったです。今日の授業では、好きなことが、やりたいことができるというのは、自由があるということなのではないかと、それは言い換えれば、他人に強制されないということだよという発言があって、僕、この2日間でここまで変わるものなのかというのがすごくびっくりして、特にこの自由とか、強制という言葉、僕は大学院で憲法の授業を受けたときに勉強したんですけど、それが自然にこの小学校の授業で出てくるというのはすごいなとびっくりしました。

さらに、今日好きなこと、やりたいことが「人のためにやりたいこと」と「自分のためにやりたいこと」で分かれるという発言があって、人と自分とか、相手と自分という視点を持っているのは、今、社会ということを勉強しているこの総合の授業で、そこまで考えているのだとびっくりしました。

その中で、相手に自分を理解してもらうことが大事という発言もあって、僕は仕事をしていて、人と人のトラブルを解決するのが弁護士の仕事ですけど、そのトラブルはお互いに思っていることをうまく伝えられていないということが原因だったりすることが結構多いです。

みんなは、自分が考えていることを相手に、お友達に伝えるときにどうやって分かりやすく伝えようとしているのかなと、工夫とかがあったら教えてもらいたいと思います。例えば、今日グループワークで、みんな自分の考えをグループの子どもたちに話していましたが、そのときに何か工夫していたことがあったら教えてください。

市長：山際さん、何組さんに聞きたいですか。

山際さん：じゃあ、6年4組。

市長：4組さんに。

6年4組児童：私たちの班では、人と人が結びつくということに注目を向けているので、自分たちの個性を合わせるという視点で話を進めています。

市長：ありがとうございます。

もう1人、いきましようか。今、手が挙がりそうですね。

6年4組児童：私は、自分の意見をはっきり言わないと相手に分かってもらうことができないので、まず自分の意見を言って、その後に人がどう思っているのかということ自分の意見に混ぜながら、人から聞いたことは自分の意見に取り入れて、みんなと話すように気をつけています。

市長：ありがとうございます。

よく考えたらそうですね。山際さんのお仕事は、人と人のトラブルをどうやって解決するかということですけど、おっしゃったとおり、コミュニケーション不足、伝えたいことが伝えられていないということが大体の物事のトラブルの始まりだということですね。なるほど。ありがとうございます。今のコメントを受けていかがでしょう。

山際さん：今日とこの前の授業を見ていて、6年4組の子どもたちは自分から手を挙げて発言する子がすごくたくさんいて、それにもびっくりしました。大人になると、自分の言いたいことを言えない人も多いと思うので、そういうところはすごくいいのでそのまま残しておいてもらいたいと思うし、人から聞いたことを取り入れるということを今教えてもらったんですけど、それができる人というのもすごく難しいことなんだろうなと。

さっき自分の考えを変えたくないときはどうしましようかという話もありましたけれど、自分の考えと人の考えを合わせて、自分の考えが少し変化するということもできたりすると思うし、小学生はすごいな。自分が小学生のときはそこまで考えていなかったので、いや、すごいなというふうに感じています。

市長：ありがとうございました。

実はもう時間が来てしまいました。もうオーバーしちゃったというので、もうあと1時間でも2時間でもできそうな感じがしますが、本当にお互いに学びの多い時間だったと思います。ありがとうございます。

最後にコメントしたいと思うんですけども、やっぱり自分たちが幸せに生きるためには、自分のことを大切にすること、皆さんどこのクラスでも言っていたのが非常に印象的だったんですけども、そのためには相手をしっかりと尊重する、自分がなりたいものになるためには相手のことをよく考えなくちゃいけないということ、みんながとてもよく考えてくれているということにすごく勇気が湧きました。

世の中は戦争が起こったりしますけれど、もっと大人がちゃんと向き合って、認め合って話し合う。こういうことができていけば、平和な世の中になるのになと、少し自分の反省も含めて今日は学びの多かった時間だったと思います。

これからもこの学びというものはずっと皆さん続くと思いますけれども、これからも頑張っていたきたいと思っています。

ありがとうございました。

司会：それでは、皆さん、お疲れさまでした。福田市長、ありがとうございました。

以上をもちまして、第62回車座集会は終了となります。皆様、御協力いただきましてありがとうございました。